足立税務署長賞

「無駄じゃない」

足立区立 第十一中学校

三年　麻生　弥生

テレビのニュースを見ていると、時々このような言葉を耳にします。それは、税金の無駄使いという言葉です。予算を大幅にオーバーした公共事業や、ほとんど誰も使っていない立派なハコモノ施設の映像が流れるたびに私はモヤモヤしていました。消費税を払っている身として、自分たちの生活を支えるための大切なお金が、無駄に使われているように感じ、不満だったからです。

しかしある日、学校の通学路の道路で舗装工事をしているのを見て、私の税金に対しての考えに少し変化が生まれました。その道路は、ひびが入り、何度か転びそうになった事があり、危ない道だと思っていた所でした。数日後、工事のおかげで道路は直り、ひびもなくなって、誰もが安全に通れるようになりました。そのとき、私はハッとしました。ニュースで報じられる無駄使いばかりに目を奪われていましたが、私たちの身近な安全は税金が支えてくれているということに気づいたのです。

そこで私は何が無駄で、何が必要なことなのかを考えました。例えば、利用者が少ない地域の図書館や公園は、利用しない人から見れば税金の無駄に見えるかもしれません。しかし、そこを大切にしている地域の人や高齢者や小さな子どもたちにとっては、なくてはならない場所です。つまり、ある人にとっての無駄が、別の人にとっては生きるために必要なサービスになることがある

のです。国や自治体は、限られた予算の中ですべての人が公平に暮らせるようにバランスを取らなければなりません。その難しさを無視して、一部の表面的な部分だけを見て「すべてが無駄使いだ」と決めつけるのは少し乱暴ではないかと思うようになりました。

もちろん、本当に見直すべき無駄使いはなくすべきです。しかし、それをただ一方的に批判しているだけでは社会は良くなりません。本当の無駄を減らすために必要なのは、私たち市民が税金に関心を持ち続けることです。政治家や役所任せにするのではなく、自分たちの税金がどのように使われているのか、そして、どのように使うべきかをそれぞれ考える必要があります。

私はまだ政治に直接関わることはできません。しかし、毎日通う学校の校舎や普段使っている教科書などが税金で維持されていることを知っています。まずは、これらの身近な公共のものを大切に扱い、無駄にしないことが今の私にできる最も身近な税金の無駄遣いを防ぐ行動なのだと思います。また、将来私が大人になって、より多くの税金を納めるようになったときには、ニュースを鵜呑みにするのではなく、自分の頭で使い道の正しさを判断できる人間になりたいです。